

Sony Bank WALLET ご利用動向調査に関するお知らせ

ソニー銀行株式会社（代表取締役社長：住本 雄一郎／本社：東京都千代田区／以下ソニー銀行）では、9月14日（月）より口座開設でGarminデバイスが当たるキャンペーンを実施しています。これを受けてGarmin Payなどの非接触決済をはじめとする、Visaデビット付きキャッシュカード「Sony Bank WALLET」の利用動向を調査しましたので、お知らせいたします。

概要

対象：2020年7月末時点有効口座（約70万件）

集計期間：2020年1月～2020年7月

サマリー

- Sony Bank WALLET の1回あたりの利用単価は「500円以上 3,000円未満」が半数以上。約2割のかたは月に21回以上利用されており、日常のさまざまなシーンで利用いただいている。
- 2020年7月の非接触決済の取引件数は、5月対比でほぼ倍増。気軽な普段使いとしてスマートウォッチを含めた非接触決済が今後さらに普及し、現金に代わる決済方法として確立するトレンドか。
- 利用加盟店別ではコンビニやECサイトが上位を占める。緊急事態宣言下では非対面取引が活発になり、ECサイトにおける取引件数は2020年1月から約3割増加。

TOPICS ① Sony Bank WALLET のアクティブユーザーは20～40代。利用単価は「500円以上 3,000円未満」が半数以上を占め、約2割のかたは月に21回以上利用。

Sony Bank WALLET の発行枚数は2020年7月末時点で、約70万枚（有効口座）となっています。

保有者を世代別に見ていくと、40代が26%と最も多く、次いで30代が24%と、30代～40代のかたを中心に、ご利用いただいていることがわかりました。20代や50代のかたもそれぞれ約20% いらっしや、幅広い年代のかたにご利用いただいています。

年代別保有割合

年代	全体比率
15～19歳	3.1%
20代	17.7%
30代	23.9%
40代	26.1%
50代	18.9%
60代	7.7%
70歳以上	2.7%

1回あたりの利用単価では、「500円以上 3,000円未満」が半数以上を占めました。クレジットカードに関する調査(*1)では、1回あたりの平均的な支払金額として半数以上のかたが「500円以上 5,000円未満」と回答しており、デビットカードである Sony Bank WALLET もクレジットカードと同様の使い方をされていることがわかります。

また、1ヶ月あたりの利用頻度は、約4割のかたが1～5回である一方、約2割のかたは月に21回以上利用されており、日常のさまざまなシーンで利用いただいていることがうかがえます(国内のVisa加盟店で Sony Bank WALLET をご利用いただくと利用額の最大2%を毎月キャッシュバックしています)。

(*1) 出典：楽天インサイト株式会社「キャッシュレスに関する調査」(2020年7月2日)

スマートフォンで利用できる「Sony Bank WALLET アプリ」では、Visaデビットご利用時にプッシュ通知でお知らせするほか、利用状況の確認や残高確認も可能です。さらに、不正利用対策としてVisaデビットの一時停止・再開や海外利用・ネットショッピングの個別制限、利用限度額も変更できるなど、セキュリティレベルを維持しながら便利にご利用いただけます。

利用単価(円/回)別割合

利用単価(1回あたり)	全体比率
100,000円以上	0.4%
50,000円以上 100,000円未満	0.5%
10,000円以上 50,000円未満	6.0%
5,000円以上 10,000円未満	8.2%
3,000円以上 5,000円未満	10.6%
500円以上 3,000円未満	52.4%
500円未満	21.8%

利用頻度(1ヶ月あたり)別口座数割合

利用頻度(1ヶ月あたり)	全体比率
1～5回	43.9%
6～10回	16.6%
11～15回	10.6%
16～20回	7.2%
21回以上	21.8%

TOPICS ② 非接触決済の取引件数は、5月・7月対比でほぼ倍増。気軽な普段使いとしてスマートウォッチを含めた非接触決済がさらに普及し、現金に代わる決済方法として確立するトレンドか。

ソニー銀行では、2019年9月発行分から Sony Bank WALLET に「Visaのタッチ決済」機能を搭載し、カードをリーダーにタッチするだけでお支払いが可能になりました。同年11月には Google Pay™、2020年4月に Garmin Pay、同年7月に Fitbit Pay™ に対応するなど、非接触決済デバイスへの対応を拡大させてきました。

2020年7月の非接触決済の利用率は、20～40代が約75%を占める結果となりました。非接触決済の取引件数で見ると、2020年5月と比べて2020年7月の利用件数は約2倍に増加しています。これは、Visaのタッチ決済加盟店や対応デバイスが拡大していることに加えて、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から非接触決済の利用を愛好する動きもあったと推察されます。

非接触決済の年代別利用率

年代	非接触決済利用率
15～19歳	7.6%
20代	21.7%
30代	29.0%
40代	23.3%
50代	13.6%
60代	4.2%
70歳以上	0.6%

TOPICS ③ 利用加盟店別ではコンビニやECサイトが上位を占める。緊急事態宣言下では非対面取引が活発になり、ECサイトにおける取引件数は2020年1月から約3割増加。

Sony Bank WALLET について利用加盟店別に見ていくと、コンビニやECサイトで利用が多く、日常のさまざまなシーンで利用されていることがわかります。また、緊急事態宣言下（2020年4月7日から5月25日まで）では政府による不要不急の外出自粛要請を受けて、Amazonをはじめ、iTunes Store や UBER EATS、メルカリなどが利用加盟店上位に入り、非対面取引が活発になりました。緊急事態宣言解除後の6月以降は、イオンなど実店舗での利用が増加しています。

次に Sony Bank WALLET の利用先を EC サイトに絞って調べると、EC 市場での取引件数は 2020 年 1 月から 7 月の間で約 3 割増加していることがわかりました。経済産業省の調査（*2）では、2019 年の日本国内の B to C-EC（消費者向け電子商取引）市場規模は 19.4 兆円（前年 18.0 兆円、前年比 7.65% 増）に拡大しており、今後も EC サイトにおける Sony Bank WALLET の利用は増加することが予想されます。

（*2）出典：経済産業省「令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」（2020年7月22日）

利用加盟店上位（順不同）

2020年4月・5月		2020年6月・7月	
Amazon	セブン-イレブン	Amazon	セブン-イレブン
iTunes Store	ファミリーマート	iTunes Store	ファミリーマート
ソニーストア	ローソン	ソニーストア	ローソン
モバイル Suica	メルカリ	モバイル Suica	イオン
DMM	UBER EATS	Google	Yahoo! ショッピング

ご参考：口座開設 + 10万円入金で、50人に1人にGarminデバイスが当たるキャンペーン実施中！

ソニー銀行では9月14日（月）より、「Garmin デバイスが当たる！口座開設キャンペーン」を実施しています。Garmin Pay に Sony Bank WALLET を登録することにより、今回のキャンペーンの特典である Garmin デバイスをリーダーにタッチするだけでお支払いが可能です（Visa のタッチ決済加盟店でご利用いただけます）。Garmin Pay でのお支払いも、Sony Bank WALLET でのお支払いと同様に、ご利用代金がお客さまの口座から即時に引き落とされるため、事前のチャージは不要です。この機会にぜひソニー銀行の口座開設をご検討ください。



Garmin デバイスが当たる！口座開設キャンペーン	
内容	期間中に口座開設（Sony Bank WALLET 発行）をお申し込みいただき、対象条件を満たしたかたのなかから抽選で 50 人に 1 人、Garmin デバイスをプレゼントいたします。
対象条件	以下の条件を満たしたお客さまが抽選対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 期間中に、キャンペーンページから口座開設（Sony Bank WALLET 発行）をお申し込みいただくこと ● 2021 年 1 月 31 日（日）23:59 時点で円預金口座（普通預金、定期預金、積み立て定期預金）に、残高が 10 万円以上あること
対象期間	2020 年 9 月 14 日（月）～ 2020 年 12 月 13 日（日）
プレゼント方法・時期	2021 年 2 月下旬にお客さまのご登録住所へお送りいたします。

※詳細ならびにご注意事項等につきましては、サービスサイトの[キャンペーンページ](#)をご覧ください。

以上